植調協会だより

◎　人事異動

平成18年1月1日付　　任　　北海道支部　　松川　　勲

編　集　後　記

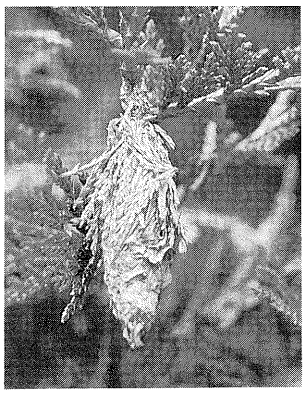
新年あけましておめでとうございます。

2006年は日本経済は漸くデフレを脱却し，大企業を中心として景気は上昇すると観測されています。しかし，農業を取り巻く環境は依然として氷河期。外圧として押し寄せる農産物の関税撤廃の圧力，価格競争の激化などなどにより一層の合理化，生産コストの低減を強いられ益々厳しくなることが予想されます。とは言っても敗ける訳にはいきません。2006年の年頭に当たり，勝組になるために更なる飛躍を遂げる手段を講じ明るい希望を持って邁進したいものです。

月刊「植調」も2006年は創刊40周年を迎えます。環境保全と21世期型の農業技術確立のための新技術，新しい農業資材の情報などをより速く提供する体制を強化して対応する所存でおりますので，皆様方の一層のご協力とご支援をお願い申しあげます。

昨年は世界的規模で異常気象に見舞われました。日本列島の記録的な猛暑。アメリカでは史上最大級のハリケーンの襲来。そしてまた昨年暮から今年の正月にかけての豪雪。異常気象の連続です。特に今回の豪雪は日本列島の日本海側では観測史上初といわれる豪雪で新潟県，長野県の豪雪地帯では3mを越す積雪でおおきな被害がでております。豪雪地帯の皆様には心からお見舞い申しあげます。

ところで，昔から雪の多い年は害虫の発生が少ないと言われています。これは雪のために害虫が越冬中に雪により死亡率が高くなるためかも知れません。これに関連して今年の豪雪の中，害虫ではありませんが「ミノムシ」はどうしているだろうかと想像してしまいました。というのは，ミノムシは幼虫で越冬しますが夏の終わりに母虫の「ミノ」から出た幼虫は植物を糸でつづって自分の住家である「ミノ」を作り秋までに成長してこのミノの中に幼虫で越冬します。この自分の「ミノ」を作る場合ミノムシはその冬の積雪量を予測して「ミノ」が雪に埋もれないような高さの場所を選んで「ミノ」を作るという俗説があります。今年はどうだったのだろうか？　推察するとここ何十年も暖冬が続き積雪量も少なかったので恐らく例年どおりの積雪量と予測して，「ミノ」の高さを例年の高さの場所に「ミノ」を作ったに相違ないと思われます。ところが今年はこの豪雪，今頃は雪の中に埋まってミノムシの幼虫は驚いて四苦八苦しているのではないだろうかと想像してしまいました。　㋮



▲オオミノガ（ミノムシ）の幼虫もビックリ？

財団法人　日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話　(03)3832-4188　(代)
FAX　(03)3833-1807
http://www.japr.or.jp/

平成18年1月発行　定価525円(本体500円＋消費税25円)
植調第39巻第10号　　(送料 270円)

編集人　日本植物調節剤研究協会　会長　小林　仁
発行人　植調編集印刷事務所　広田伸七

発行所　東京都台東区台東1－26－6　全国農村教育協会
植調編集印刷事務所
電話　(03)3833－1821(代)
FAX　(03)3833－1665
E-mail：hon@zennokyo.co.jp

印刷所　新成印刷㈲